

6 評価対象課題の研究内容と評価結果(概要)

研究課題	1 有機フッ素化合物に係る日中韓汚染状況比較及び生体影響解明等に関する研究 (26-28)
研究目的・背景	汚染物質としてのPFCsは、PFOS・PFOAが規制となり代替化合物が使用されてPFHxA汚染の影響が懸念されている状況である。一方、環境・生物・人体を研究対象とする場合、測定化合物が多岐にわたるかつ緻密な操作が必要で、PFCs分析法を開発した当研究センターに技術指導・支援が求められている。本研究は、「いわて県民計画」の「環境分析技術による国際貢献」施策として、中国・韓国・タイへの研究支援を行うことを目的としている。
研究内容	(26年度～28年度) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒト組織における有機フッ素化合物の蓄積量の解明(中国医科大・大連理工大)</li> <li>・動物実験による各組織中の有機フッ素化合物の蓄積量の解明(岩手大学・環保研セ)</li> <li>・タイ等からの留学生及び京都大学学生への分析技術研修(環保研セ、京都大学)</li> <li>・日韓政府間共同研究—メダカによる環境モニタリング(国立環境研究所・全南大学・環保研セ)</li> <li>・国立環境研究所から依頼された試料の有機フッ素化合物分析(環保研セ)</li> </ul>
評価結果	<p>○総合評価 A(3人)・B(3人)・C(人)・D(人)</p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本課題は貴研究機関の代表的な研究の一つであり、成果はPOPsの規制条約にも重要な役割を果たしたと評価しています。外国の研究機関も含めての次期3年間における共同研究の提案であるが、分析とその指導のみならず、主体的に研究に関与し、成果の公開を参画機関を集めて報告会やシンポジウム等を開いて成果の公開を是非お願いします。</li> <li>・センターにある高度な技術を用いて汚染状況、生体影響を解明することは意義のあることであるが、研究内容をより具体的に示して欲しかった。</li> <li>・国際的ニーズの高い重要なテーマと思われるが、参画機関の役割と課題、解決方法を明確にし、研究スケジュールを立て計画的に実施してほしい。</li> <li>・本研究は、国内だけでなく、国際的にも大きな貢献を果たすものと考えられる。</li> <li>・重要な課題であり、優先的に取り組む必要がある。国際的取り組みであり高く評価される。</li> <li>・問題の存在や研究の意義は理解できたが、研究の枠組みや取組体制、その中で県センターが何をするのが分かりにくい。学会等の出張旅費が多いが必要か？</li> </ul>
センターの対応方針	<p>1 研究計画のとおり実施</p> <p>(コメント)</p> <p>これまでは、主にPFOS・PFOAの汚染実態を解明が中心であったが、今後は有機フッ素化合物の生体影響に主眼を置き、まだ未解明であるヒト生体内における有機フッ素化合物の挙動や蓄積量の分布の解明に取り組み、その研究結果を積極的に県民へ情報発信していきたい。また、引き続き中国や韓国の研究機関と連携や海外への技術協力の取り組みを通じ、「いわて県民計画」に掲げる国際貢献を果たしていきたい。</p>